ホームページ↑

会えなくてもつながる地域と大学

担当教員
音楽教育部門 北川純子
保健体育部門 太田順康
美術教育部門 谷村さくら

「こどもフェスタ」とは

「こどもフェスタ」は、地域の子どもたちに「遊び」を拓いてゆこうとの主旨をもつ「表現教育」（一回生対象）の授業内の取組みで、子ども理解、協働を学ぶのが目的です。

表現活動教育系の有志教員とその担当授業・受講生を主に、大学の授業を通して地域とつながることを目指したフレンドシップ事業のひとつとして、18年間継続されてきました。

受講生たちは班に分かれ、地域の子どもたちに遊んでもらう催しを立案、実行してきました。

はじめてのオンライン開催

ホームページ↑

これまで

大学祭にて各班がブースを作り、
こどもたちを招いて遊んでもらう。

今年度

新型コロナウイルス感染症の影響により、
コンテンツをオンラインで公開。

はたして

学生も教員も初の試みだが、
逆に意欲を燃やす学生たち！

各班の活動

1班　はてなフレンズ
2班　さるとかっぱ
3班　どうぶつ学校
4班　かみしばい

4班に分かれて動画を作成し、公開するためのホームページをつくりました。
https://tanimura-s48.wixsite.com/my-site1

活動は大学のホームページ等で紹介。
附属学校園にご協力を頂き、こどもたち、保護者の皆様より、動画をみた感想、ご意見を頂戴しました。

頂戴したご意見は学生たちにフィードバックし、今後の学びにつなげます。

はてなフレンズ

影絵や曲当てクイズ など
楽しめるコーナーのある動画を制作

学生たちの声

- 動画を見るこども達に合わせて難易度を変えることが重要だと感じた。
- こども達の興味を惹く、興味が逸れないようなデザインにすることも重要だと学んだ。
- こどもたちの目を引くためには明るさや色鮮やかさが大切だと学んだ。

こどもたちの声

- 音楽のクイズが面白かった
- みんなが、知っている曲が、出てきたこと
- 何が出てくるかわからないから楽しい

さるとかっぱ

「ウサギとカメ」の話を
「さるとかっぱ」にアレンジ
着ぐるみを使った劇動画を制作。

学生たちの声

- 自分の幼少期を思い出しながら考えることが大切。
- 子供たちの集中力が長く続かないことを踏まえたうえで、なるべく伝わりやすい表現・工夫を行うことが大切。
- 着ぐるみの貸出期間や日没などの条件により、撮影時間が限られて苦労した。

こどもたちの声

- 感想お化け退治が、面白かったです
- かっぱとさるが、なかよくなったところがよかったです。
- かっぱの顔とうごきがおもしろい

どうぶつがっこう

動物学校の生徒になりきって見る
パペットを使った人形劇を制作

学生たちの声

- 子どもたちや保護者の方の反応を実際に見られなかったのは残念だが、その分通常よりも多くの配慮を考える良い機会になった
- インターネットの活用は増えていくので、今回の発表はまさにそれに向けた新しい試みとなった
- カメラワークや画面効果、動画の編集など、新しい知識を得ることもできた。

撮影中

編集中

こどもたちの声

- お歌が歌えてよかった
- クイズをみんなで解いているところが面白かったです
- 観ていると、一緒になって歌ったり、踊ったり出来て、とっても楽しかったです

かみしばい

紙芝居形式にした話

「おてんばかぐや姫とおつきの人」
「桃太郎～きびだんごの秘密～」

学生たちの声

- 子どもたちと直接関わることはできなかったけど、どうしたら喜んでもらえるかを考えながら制作できた
- 登場人物になりきって、台詞に感情を込めて読むのに苦労した
- みんなでアイデアを出し合って良いものをつくっていくことはとてもいい経験になった

「おてんばかぐや姫とおつきの人」

「桃太郎～きびだんごの秘密～」

こどもたちの声

- 普通の話とは少し違うところがおもしろかった
- かぐや姫の甘えん坊な性格が可愛かった。
- 鬼が仲間になって良かった
- アニメ風の絵が面白かった

蜘蛛のお告げ

昔々、ある村に１人の男が住んでおった。男は父親と二人で暮らしていたという。
男はこの世で最も、虫が嫌いだった。大人になっても虫が怖く、家にいる虫はすべて父親が退治した。
ところがある日、男の父親が死んだ。「父さん…父さん、これから俺、どうしていけば…」
男は仕事をしなかった。父親が死んで、飯を食う金がない。
そこで男は決めた。「俺は泥棒になる」
そして、村中の家から金やものを盗み始めたのであった。
時には人をも殺し、物を盗んだという。
ある日男が家に帰ると、男は恐ろしいものを見た。「う、うわーっ！な、なんだこれは！」
なんと天井の大きな蜘蛛の巣に10匹もの虫が引っかかっていたのだ。蜘蛛もいる。

他にも数点の候補作品がありましたが…

ふりかえり

新型コロナウイルスの影響により、制作時でさえ制限のある中で、
学生たちが感じたことは。

学び

- こどもの視線に立ち、対象年齢に応じて内容を考えるべき。
- 参加型の方が画面の前で一緒に楽しめる。
- 字幕やフリガナなど、対面で行うイベントとは また違った配慮が必要。

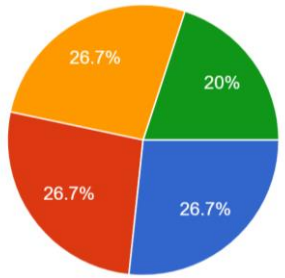
苦労

- 班の中で仕事を上手く割り振ることが大切。
- 撮影には照明やマイクなど、様々なツールが必要で、編集にはとても時間がかかる。
- 限られた時間の中で計画的に作業をしなければならない。

喜び

- 制限がある中でも工夫すれば楽しみをつくり出せる。
- 班のメンバーと協力し、解決しながら進める作業は楽しい。
- こどもたちの様子を見られなかったのは残念だが、アンケートの声が嬉しかった。
- 将来、必要となるオンライン活用の力が身についた。

こどもアンケートより
一番楽しかった動画は？



●はてなフレンズ
●さるとかっぱ
●どうぶつがっこう
●かみしばい

ホームページ公開中

沢山のこどもたちに見てほしくて！
学生がつくったホームページ

＊是非ご覧いただき、アンケートにもご協力お願いします

https://tanimura-s48.wixsite.com/my-site1

★文教速報・文教ニュースにも掲載されました★